

白浜レスキューネットワーク通信 5月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://srnw.or.jp>e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

5月1日～5月31日

電話件数 250件

メール相談 4人

保護件数 2件(男性2名)

帰宅件数 2件(男性2名)

○30日、男性を二人保護。一人は警察からの依頼。もう一人は三段壁からの電話だった。二人共地元の人で、帰る場所があり、今後も相談にのりつつ自宅でやり直すことになった。

生活自立支援活動

5月1日～5月31日

滞在者数 13人(男性10人、女性3人)

自立者数 1名(男性1名)

自主退所者数 1名(男性1名)

○昨年10月に保護した80代女性は、共同生活に彩を加えてくれる存在となっている。自身の抱えている問題についても、少しずつ手を放して客観的に見られるようになってきている。

○高卒卒業資格を取ろうとしている20代男性は、初のベーコン作りに挑戦した。

○コンビニとまちなかキッチンで働く20代女性は、NPOの事務の手伝いも定着。しかし、外でもできるへ向かっていく自信はまだない。

○デイサービスに週3回行き、ヘルパーがほぼ毎日入っている80歳の男性は、人の出入りがあるたびに感情を揺さぶられるようだ。出て行った人たちのことを心配している。

○タクシーの運転手になった男性は、連休明けに会社の寮へと移って行った。

○まちなかキッチンで訓練を受けている30代男性は、できなかったことを報告し、相談して

解決するということが苦手。

○もうすぐ共同生活4年になる、まちなかキッチンで訓練を受けている男性は、自分の課題を受けとめ、克服のために努力している。

○共同生活に加わって一年経った女性は、まちなかキッチンで訓練を受けている。いつもレシピや動きを、前日にかなり時間をかけて準備している。そうしないと当日動けないという。

○リハビリに行き始めた男性は、少しずつ気持ちが前向きになっている。部屋でずっと寝ているということがなくなって来た。

○40代男性は、9日、働いた分の給料で、滞納している携帯代を支払いに行ったまま帰ってこなかった。

○今年2月から、ホテルで働き始めた40代の男性は、営業自粛で自宅待機となったため、連日、農業にかかわってもらっている。

○昨年10月に近所のアパートに引っ越してきた女性は、自分が人から嫌われていることに気付いているが、自分の主張の方が正しいと言い張れる強さがある。

○明誠高校和歌山白浜SHIPの生徒となった高校生は、午前中は農業、午後は高校とメリハリのある生活を送っている。

自殺予防活動

・相談電話

6日、13日、20日、27日と行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

*コロナウイルスの感染予防のため、以下の活動を自粛。

- ・放課後クラブ
- ・コペルくん
- ・夜コペ
- ・はじめ人間自然塾
- ・少年少女漂流隊